

平成31年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>知情体の調和のとれた発達を図り、時代の変化に主体的に対応できる、日本や地域社会の未来を担う人間を育成する。</p> <p>■ 本校が目指す学校像</p> <p>1 「大江高校に来てよかった」と思える学校</p> <p>2 第1希望の進路が実現する学校</p> <p>3 地域から愛される学校</p> <p>■ 本校が目指す生徒像</p> <p>1 確かな学力【知】 知識や技能の基礎基本の定着を図り、自ら学ぶ意欲と課題解決能力を育てる。</p> <p>2 豊かな情操【情】 徳性を高め、豊かな感性や情操を培うとともにボランティア精神を養う。</p> <p>3 強い意志【意】 自らの進路や新しい社会を切り拓く強い意志とチャレンジ精神を養う。</p> <p>4 健康でたくましい心身【体】 自他の生命を大切に、心身ともに健康でたくましく生きる力を育てる。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 系統的かつ計画的に進路指導を行い、就職内定率100%（約80%が地元企業）にできなかった。</p> <p>(2) 京都フロンティア校（地域創生推進校）として充実した取組を行うことができた。立案・運営する活動、活性化策を考える調査・研究を通して、主体的な学習に向かう姿勢を身に付ける生徒も見られ、高い学習効果につながった。</p> <p>(3) 様々な学力層の生徒が混在する中で、情報機器を活用した授業研究等を行うなど、授業力の向上を目指した取組を行った。各教科においては授業の進め方や教材などを工夫したり、表現活動、体験学習や校外学習を取り入れるなど、生徒の主体性を引き出す実践を行った。 セカンドラーニングを活用するなど、教務部、学年部、教科が連携して取り組み、丁寧な指導することができた。また、授業のみならず、課題や小テストを定期的に行い、幅広く評価することで、基礎基本の徹底を目指した取組を行うことができた。</p> <p>(4) 専門的な知識・技能を高める指導により、昨年度までに引き続いて全国簿記コンクール、全国ワープロ競技大会、スピーチコンテスト等において優秀な成績を収めることができた。</p> <p>(5) 学校改革に向けて分野別にワーキンググループによる検討を行い、前年度までに定められた方向性を具体化する作業を始めることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 学校改革に向けての取組の過程を踏まえ、教育課程への位置付けを目指し、さらに具体的な検討・準備を行う必要がある。</p> <p>(2) 基礎基本の徹底を目指したが、全体的な学力向上の実現には課題が残っており、体系的な学び直しの手立てを検討しなければならない。</p> <p>(3) マナーアップを目指し、通学・学校生活での指導に取り組んだが、今後も身だしなみや携帯端末の指導を継続して重点的に取り組む必要がある。</p> <p>(4) 中学校との連携を積極的に行ったが、志願者増にはつながらなかった。中学生の志願に結び付く広報について検討し、教職員全体で対応する必要がある。</p>	<p>1 学校改革と地方創生教育による特色化をさらに推進するとともに、学科改編を実施する。 平成27年度から推進してきた地方創生教育をより体系的・効果的に推進し、様々な取組を教育課程に位置付けることにより、効果のある取組を継続的に行うようにする。また、将来に向けた学校改革を具体化し、学科改編を円滑に実施できるようにする。</p> <p>2 戦略的な広報活動の展開 次年度入学生から始まる新学科（仮称：地域創生科）の教育内容を、オープンスクールや学校説明会を通して、中学生・その保護者・中学校教職員に周知させる。 また、地域創生を目指した各種連携事業を、マスメディアやホームページ等を通じて発信し、地域住民や事業所並びに関係機関への理解を求めることにより、新学科へのスムーズな接続を図る。</p> <p>3 「生徒を伸ばす学校づくり」を強化する。～教え方改革の実践～ 「教え方改革」を実践することにより、きめ細かく粘り強い指導を行うとともに、個に応じた学力の向上を図り、全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるように努める。また、家庭との連携や地域との連携により、学校・家庭・地域の三者で生徒を育てる。</p> <p>4 スマートスクール化の推進 配備された電子黒板等のICT機器を効果的に活用し、ソサエティ5.0で想定される新たな教育システムの構築を目指す。</p> <p>5 社会人基礎力を身につけるために必要なマナーアップを3つの視点からさらに推進し、将来地域を担う人材の育成につなげる。 (1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、社会の一員としての規範意識を高める。 (2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安心・安全で清潔な学校環境づくりに取り組む。 (3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度や家庭学習の習慣化により、学び姿勢の育成と基礎学力を向上させる。</p> <p>6 安心・安全な学校環境の構築を進める。 いじめ防止の取組、防災教育・交通安全教育、環境美化を推進し、安心・安全な学校環境を構築する。</p> <p>7 教職員の働き方改革の推進 業務改善、教員の負担軽減対策を講じることにより働き方改革を推進し、業務の効率化を図るとともに複雑化・多様化する課題に的確に対応できる組織づくりを行う。</p>

評価領域	項目（重点目標）	的 方 策	評 価	成 果 と 課 題
組織運営	学校改革と地方創生教育によるさらなる特色化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■学校経営戦略会議を軸に、昨年度までにまとめた学校改革について詳細を検討し、教育課程も含めた具体的な改革案を作成する。 ■京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校として過去2年間に取り組んだ地方創生教育をより体系的・効果的なものに整理し、地域の活性化につながる学習内容を充実させることで地域の未来を担う生徒を育てる。 ■学校設定科目を中心にアクティブラーニングや体験活動の要素を取り入れ、普通科・ビジネス科学科両学科の特色を生かした本校独自の魅力ある授業内容の研究を進める。 		
	積極的な広報活動の展開による本校第1希望者の増加	<ul style="list-style-type: none"> ■広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新（リニューアルを含む）等を積極的に行う。 ■各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。特に中学校での出前授業や体験授業を充実させることで本校の魅力を伝える。 		
	働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■教育活動を円滑に実施するためには、教職員の健康の充実が不可欠であることから、出退勤管理システムの記録を分析し、長時間勤務教職員の勤務時間の縮減に取り組む。 		
学習指導・進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒一人一人の能力・適性・特性に応じた教材や授業方法を工夫し、誰もが分かる授業を展開するとともに校内外での研修を継続的にを行い、授業力のアップにつなげる。 また、地域との連携等を通じて主権者教育、人権教育、道徳教育など様々な視点からの学びを提供する。 ■学年部と教科担当の連携を密にし、個々に応じた丁寧な指導を行う。特に学習に課題を抱えている生徒に対しては補習等の指導を粘り強く行う。 ■課題、小テスト、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎基本の徹底を図り、確かな学力につなげる。 ■図書館の利用の促進、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感の涵養につなげる。 ■系統的な進路指導計画に基づいて、低学年から個別面談やガイダンス等によりきめ細かい指導を行うことで、積極的に進路を考え、行動に移す力をつける。 ■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。 		
生徒指導	マナーアップ指導によるシチズンシップ教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ■通学上、授業、学校行事等を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉遣い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の市民生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制で粘り強く丁寧に指導する。 		
	安心・安全な学校の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■教育活動全体を通して社会の一員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について啓発する。また、地域、PTA、警察等とも連携した指導を行うことで、学校だけでなく、地域全体で生徒を育てる。 ■危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うことで安心・安全な学校づくりを推進する。 		
	課外活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■部活動への加入を奨励し、活性化を図る。また、地域と連携したボランティア活動や本校独自の取組への参加を奨励することで、自己有用感の涵養につなげる。 ■生徒会執行部を基軸として各委員会を機能させ、各種学校行事を主体的に運営し、成功につなげることで、生徒会活動を充実させる。 		
保健・環境	健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで自己管理できる素養を育てる。 ■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザー、関係専門機関、関係分掌、保護者との連携を密にし、迅速かつ適切な対応を取る。 		
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■学校予算の効果的な配分・執行を行うことで、効果的な教育活動につなげる。また、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。 		

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--